

大徳寺聚光院

やまと語りへ奉納公演

千の光を継ぐもの

利休と等伯

利休と等伯はいつごろ出会い、  
どんな影響を及ぼしたのか？

安土桃山時代に描かれた長谷川等伯の国宝「松林図」は、何を我々に  
伝えているのか？新しい御代令和に咲く、沙羅双樹の花を愛でながら  
●利休が今を照らす光を語る。

やまと語りへ やすき ひろこ

パーカッショニスト/ユン・ツボタジ 鳳笙奏者/井原季子 箏奏者/山田裕子

【第一公演】13:00～(12:30より受付) 【第二公演】15:30～(15:00より受付)

- 【場所】 大徳寺聚光院（京都府京都市北区紫野大徳寺町58）
- 【拝観】 狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画（一部のみ・高精細複製画）  
茶室「閑隠席」「枳床席」、千住博筆『滝』
- 【料金】 1人4,000円 【定員】 各回60名
- 【事前予約】 「京都春秋 ことなり塾」HPにて受付  
<https://kotonarijuku.kyotoshunju.com/experience/221.html>
- 【同時開催】 陶芸家・貴和皇山による「貴和曜変」の展示  
横瀬智也による語り「宇宙創生の雫」
- 【問合せ先】 株式会社京都春秋  
TEL：075-231-7015 E-mail：info@kyotoshunju.co.jp





# 大徳寺聚光院 やまと語りべ奉納公演

## 千の光を継ぐもの 利休と等伯

天正17年(1589)大徳寺三門を重層にする工事が、利休の寄進により始まった。その内部の天井に龍、天女、共鳴鳥、迦陵頻伽、そして柱に仁王像の絵付けをしたのは、長谷川等伯という能登七尾出身の田舎絵師であった。

この仕事を機に長谷川等伯の名は天下に轟き、狩野永徳亡き後には豊臣秀吉に重用され、二百石の知行を与えられし御用絵師となる。一方の千利休は、大徳寺三門に置かれた等身大の利休像が秀吉の怒りに触れて、天正19年2月28日、秀吉の命により切腹して果てた。

利休と等伯はいつごろ出会い、どんな影響を及ぼしたのか？安土桃山時代に描かれた長谷川等伯の国宝「松林図」は、何を我々に伝えているのか？新しい御代令和に咲く、沙羅双樹の花を愛でながら利休が今を照らす光を語る。



やまと語りべ

### やすき ひろこ

9歳の時に児童劇団に所属し、子役として活動する。大阪芸術大学舞台芸術学科にて脚本を学ぶ。2003年より日本伝統の舞台様式を駆使した、語りと芝居を融合した独自の世界観を脚本・演出・自ら演じ語るスタイルで上演。地域の活性化や町おこしに活躍している。飛鳥の岡寺や奈良・比売神社、京都・本法寺など多くの神社仏閣でも奉納公演をしている。なかでもライフワークとして、多くの神社で奉納公演している「古事記より～阿礼の背中～」は、大和言葉の音韻を残しながらわかりやすく語り、語りべ稗田阿礼が次々に神々に早変わりして行くという作品で、好演を重ねている。そのほか、代表作に「中将姫物語」「木食心其上人物語」など。



パーカッショニスト

### ユン・ツボタジ

京都市出身。1982年にNew Wave Group EP-4に加入。1984年にはヨーロッパツアーなど、海外公演を精力的に行う。1986年までに発売した4枚のアルバム/3枚のシングル/1枚のカセットブック全てに参加。2012年に再結成、現在も活動を行っている。また、並行して1984年には自身がリーダーをつとめるGroup Unit4を結成。同ユニットでも1枚のライブアルバムをリリース。現在も不定期で活動している。ソロとしても即興演奏で多彩な音楽家と共演している。2001年にやまと語りべ・やすきひろこと出会い、語りの中において、竹を用いた独自のパーカッションを考案。やすきひろこの作風の世界観で存在感を放っている。



鳳笙奏者

### 井原季子 (いはら・ときこ)

高野山の守護、丹生都比売神社にて巫女舞の修練中に笙と出会う。元宮内庁学部長・豊英秋氏、東康弘氏に師事。日本の伝統文化と精神性、そして世界に根ざした普遍性を探求しながら研鑽を重ねる。2017年ロサンゼルス「The Broad "Summer forest"」に参加、2018年には野田秀樹作品「贗作 桜の森の満開の下で」に楽曲提供(バリシャイヨー劇場・東京劇術劇場他上演)、2019年、「Camille Boatel-MA 間-」フランスツアー参加等、全国の社寺での御奉奏をはじめ、国内外にて様々な創作活動を行う。  
※笙は、鳳凰が羽を休めている姿に例えられ「鳳笙」とも呼ばれる。5世紀に仏教とともに日本に伝来し、世界最古の合奏音楽のひとつである「雅楽」において、宮中や社寺の祭礼にて演奏される三管(鳳笙・龍笛・箏篋)のひとつである。



箏奏者

### 山田裕子 (やまた・ひろこ)

和歌山県出身。12歳より生田流箏曲を始める。現在、箏曲家西陽子氏に師事。箏デュオ「和姫すけ」、邦楽グループ「ふわり」、ピアノ・箏デュオ「ふいーるころーれ」のメンバーとして演奏活動を行う。2012年～2014年の2年間。2018年には3か月間、独立行政法人国際協力機構JICAのシニアボランティアとしてブラジルで日本文化・箏の指導を行う。2018年、箏・尺八・歌による音楽グループ「わのわ」を立ち上げ、神社仏閣を中心に奉納演奏活動を開始。2016年、第一回山田裕子・KOTOコンサート「箏の葉～ことのは～」を主催。やまと語りべ・やすきひろこと出会い、やすきひろこの語りにおいて伝統楽器十七弦箏と箏を使い分け、迫力のある存在感を現している。